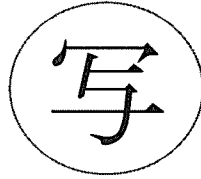


大教学指収第179号
令和3年4月21日



東大和市立小・中学校校長 殿

東大和市教育委員会学校教育部参事
兼教育指導課長事務取扱 小野隆一

学校の水泳授業における感染症対策について

このことについて、別添写しのとおり令和3年4月19日付3教指企第151号にて東京都教育庁指導部体育健康教育担当課長より通知がありました。

つきましては、各学校におかれましても、地域の感染状況を踏まえ、密集・密接の場面を避けるなど、感染症対策を徹底しながら水泳授業を実施していただきますよう、お願いいたします。

担当 東大和市教育委員会 指導主事 高野 郁子
電話 042-563-2111 内線1532



本事務連絡は、学校の水泳授業（幼稚園におけるプール活動を含む。）における感染症対策の徹底をお願いするものです。

事 務 連 絡
令和3年4月9日

各都道府県・指定都市教育委員会学校体育主管課
各都道府県・指定都市教育委員会幼稚園主管課
各 都 道 府 県 私 立 学 校 主 管 課
附属学校を置く各国公立大学法人担当課
各 国 公 私 立 高 等 専 門 学 校 担 当 課
独立行政法人国立高等専門学校機構担当課
構造改革特別区域法第12条第1項の認定を
受けた地方公共団体の学校設置会社担当課

御中

スポーツ庁政策課学校体育室
文部科学省初等中等教育局幼児教育課

学校の水泳授業における感染症対策について

体育は実技を伴う教科であるため、特に児童生徒の健康と安全を第一に考えて、学習の内容や形態、授業の実施場所や時期等を総合的に考慮しながら、感染リスクへの対策が必要となります。

特に、水泳の授業においては、複数学級による合同授業の実施に伴い多くの児童生徒が同時にプールや更衣室を使用したり、複数の児童生徒が組になる形態で安全の確認をしながら学習を行ったりするなど、児童生徒の密集・密接の場面が想定されるため、様々な感染リスクへの対策を講じる必要があります。

このため、児童生徒の健康と安全を第一に考えて、地域の感染状況を踏まえ、密集・密接の場면을避けるなど、下記の事項を十分に踏まえた対策を講じた上で、水泳授業の実施について検討してください。このことについては、幼稚園におけるプール活動についても同様です。

また、実施に当たっては、スポーツ庁が作成した「コロナ禍における体育、保健体育の教師用指導資料」(https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop04/list/jsa_00001.htm) も参考にしてください。

このことについて、都道府県・指定都市教育委員会の学校体育主管課及び幼稚園主管課におかれては、それぞれ域内の市町村教育委員会及び所管の学校に対して、都道府県の私立学校主管課におかれては、所轄の学校に対して、国公立大学法人の附属学校担当課にお

かれては、関係する附属学校に対して、構造改革特別区域法第12条第1項の認定を受けた地方公共団体の学校設置会社担当課におかれては、所轄する学校設置会社が設置する学校に対して、周知くださるようお願いいたします。

記

1. 学校プールについては、学校環境衛生基準（平成21年文部科学省告示第60号）に基づき適切に管理すること。特にプール水の遊離残留塩素濃度については、プールのどの部分でも基準の濃度となるように管理すること。また、ドアノブやシャワーや洗眼器の水栓など児童生徒が手を触れる箇所は、適宜消毒を行うこと。
屋内プールについては、換気設備を適切に運転するなど換気を行うこと。また、学校以外のプールを活用して授業を行う場合には、そのプールの管理者に対して学校環境衛生基準及び本事務連絡に基づく適切な管理を徹底すること。
2. 毎朝の検温や健康観察により学習前の児童生徒の健康状態を把握し、体調が優れない児童生徒の水泳授業への参加は見合わせること。
授業を見学する児童生徒については、気温が高い日などは、熱中症にならないよう、日陰で見学させたり、必要に応じてマスクを外し、他の児童生徒との距離を2m以上確保したりするよう指導すること。
3. 授業中、児童生徒に不必要な会話や発声を行わないよう指導するとともに、プール内で密集しないよう、プールに一斉に大人数の児童生徒が入らないようにすること。プール内だけでなくプールサイドでも児童生徒の間隔は2m以上を保つことができるようにすること。
4. 授業中、手をつないだり、体を支えたりするなど、児童生徒が密接する活動は避けること。例えば、バディシステムについても、児童生徒によるプールサイドでの人数確認は、事故防止の上で重要であるが、複数の児童生徒が組になる形態であるので、感染リスクに十分注意して運用すること。
5. 更衣室については、児童生徒の身体的距離を確保することが困難である場合は、一斉に利用させず少人数の利用にとどめること。更衣室利用中は、不必要な会話や発声を行わないよう児童生徒に指導すること。水泳の授業中はマスクを外すことになるので、マスクの適切な取扱いについて指導するとともに、更衣室利用の前後に手洗いを徹底すること。また、更衣室のドアノブやスイッチ、ロッカーなど児童生徒が手を触れる箇所は、適宜消毒を行うこと。
6. 水泳の授業で児童生徒が使用するタオルやゴーグルなどの私物の取り違えや貸し借りをしないよう指導すること。

7. 水泳授業を実施する際には、以上の感染症対策について学校内で共有するとともに、児童生徒や保護者の理解を図ること。
8. 幼稚園においてプール（ビニールプールを含む）を活用した活動を行う場合も、上記1.～7.を十分に踏まえた対策を講じること。なお、幼児期の特性から、必ずしも幼児が1.～7.に基づく対応を直ちに実施できない場合もあると考えられるが、幼児が感染症予防の必要性を理解できるように説明を工夫するとともに、幼児自身が自分でできるようになっていくために十分な時間を確保すること。



【本件担当】

〔水泳授業の全般に関すること〕

スポーツ庁政策課学校体育室

電話 03-5253-4111（内線 2674）

〔幼稚園におけるプール活動に関すること〕

文部科学省初等中等教育局幼児教育課

電話 03-5253-4111（内線 2376）

都立学校長 殿

教育庁指導部体育健康教育担当課長
伊 東 直 晃
(公 印 省 略)

学校の水泳授業における感染症対策について (通知)

このことについて、別添事務連絡の写しのとおり、スポーツ庁政策課学校体育室及び文部科学省初等中等教育局幼児教育課から通知がありました。

水泳の授業においては、多くの児童・生徒が同時にプールや更衣室を使用したり、複数の児童・生徒が組になる形態で安全の確認をしながら学習を行ったりするなど、児童・生徒の密集・密接の場面が想定されるため、様々な感染リスクへの対策を講じる必要があります。

このため、児童・生徒の健康と安全を第一に考えて、地域の感染状況及び昨年度の習得状況を踏まえ、下記のとおり対策を講じた上で、水泳授業の実施について検討してください。

また、実施に当たっては、スポーツ庁が作成した「コロナ禍における体育、保健体育の教師用指導資料」(https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop04/list/jsa_00001.htm) も参考にしてください。

記

- 1 学習指導要領における「体育」の領域及び内容の取扱いに関する理解について (別紙参照)
 - (1) 高等学校・中等教育学校後期課程の全学年、中等教育学校前期課程・高等学校附属中学校の 3 年においては、複数の運動領域から選択する。
 - (2) 中等教育学校前期課程・高等学校附属中学校の 1・2 年においては、全ての運動領域が必修となっているものの 1・2 年の 2 年間で習得する。
 - (3) 特別支援学校においては、届け出ている教育課程に応じて特別支援学校小学部・中学部学習指導要領及び特別支援学校高等部学習指導要領を参照する。
- 2 水泳授業を実施する際の留意点について
 - (1) 実施の目的や方法、感染症対策について児童・生徒及び保護者に説明し、同意書を得ること。同意を得られない児童・生徒には代替種目を指導し、児童・生徒の不利にならないよう配慮すること。
 - (2) クラスを複数に分割した時間割の工夫など、密集・密接の場면을避けること。
 - (3) 毎朝の検温や健康観察により児童・生徒の健康状態を把握し、体調が優れない児童・生徒の水泳授業への参加は見合わせる。
 - (4) 更衣室のドアノブやスイッチ、ロッカーなど児童・生徒が手を触れる箇所は、適宜消毒を行うこと。
- 3 水泳授業中の指導に関する留意点について
 - (1) 水泳の授業中はマスクを外すことになるので、マスクの適切な取扱いについて指導するとともに、更衣室利用の前後に手洗いを徹底すること。
 - (2) 更衣室は、定期的に換気し、児童・生徒を小グループに分け、短時間で利用するなど、密集した状態とならないよう工夫するとともに、不必要な会話をしないよう児童・生徒に指導すること。
 - (3) プールサイドや授業を見学する児童・生徒の間隔は 2 m 以上を保つことができるようにすること。
 - (4) 児童・生徒に不必要な会話や発声を行わないよう指導するとともに、プール内で密集しないよう、プールに一斉に大人数の児童・生徒が入らないようにすること。
 - (5) 手をつないだり、体を支えたりするなど、児童・生徒が密接する活動は避けること。
 - (6) 児童・生徒が使用するタオルやゴーグルなどの私物の取り違えや貸し借りをしないよう指導すること。

[担当]

教育庁指導部 主 任 指 導 主 事 大村 賢治
同 指 導 企 画 課 統 括 指 導 主 事 升屋 友和
同 指 導 企 画 課 指 導 主 事 靱 健治
電 話 0 3 - 5 3 2 0 - 6 8 8 7

参考；小学校体育科の領域構成と内容

1年	2年	3年	4年	5年	6年
【体づくりの運動遊び】		【体づくり運動】			
体ほぐしの運動遊び	体ほぐしの運動遊び	体ほぐしの運動	体ほぐしの運動	体ほぐしの運動	体ほぐしの運動
多様な動きをつくる運動遊び	多様な動きをつくる運動遊び	多様な動きをつくる運動	多様な動きをつくる運動	体の動きを高める運動	体の動きを高める運動
【器械・器具を使つての運動遊び】		【器械運動】			
固定施設を使った運動遊び					
マットを使った運動遊び		マット運動		マット運動	
鉄棒を使った運動遊び		鉄棒運動		鉄棒運動	
跳び箱を使った運動遊び		跳び箱運動		跳び箱運動	
【走・跳の運動遊び】		【走・跳の運動】		【陸上運動】	
走の運動遊び		かけっこ・リレー		短距離走・リレー	
		小型ハードル走		ハードル走	
跳の運動遊び		幅跳び		走り幅跳び	
		高跳び		走り高跳び	
【水遊び】		【水泳運動】			
水の中を移動する運動遊び		浮いて進む運動		クロール	
もぐる・浮く運動遊び		もぐる・浮く運動		平泳ぎ	
				安全確保につながる運動	
【ゲーム】				【ボール運動】	
ボールゲーム 鬼遊び		ゴール型ゲーム		ゴール型	
		ネット型ゲーム		ネット型	
		ベースボール型ゲーム		ベースボール型	
【表現リズム遊び】		【表現運動】			
表現遊び		表現		表現	
リズム遊び		リズムダンス			
				フォークダンス	
		【保健】			
		健康な生活	体の発育・発達	心の健康 けがの防止	病気の予防

参考：中学校保健体育科 体育分野の領域及び内容の取扱い

領域及び領域の内容	1年	2年	内容の取扱い	領域及び領域の内容	3年	内容の取扱い
【A 体づくり運動】				【A 体づくり運動】		
ア 体はぐしの運動	必修	必修	ア, イ 必修(各学年7単位時間以上)	ア 体はぐしの運動	必修	ア, イ 必修(7単位時間以上)
イ 体の動きを高める運動				イ 実生活に生かす運動の計画		
【B 器械運動】				【B 器械運動】		
ア マット運動		必修	2年間でアを含む②選択	ア マット運動		ア～エから選択
イ 鉄棒運動				イ 鉄棒運動		
ウ 平均台運動				ウ 平均台運動		
エ 跳び箱運動				エ 跳び箱運動		
【C 陸上競技】				【C 陸上競技】		
ア 短距離走・リレー, 長距離走又はハードル走	必修		2年間でア及びイのそれぞれの中から選択	ア 短距離走・リレー, 長距離走又はハードル走	B, C; D, G, から①以上選択	ア及びイのそれぞれの中から選択
イ 走り幅跳び又は走り高跳び				イ 走り幅跳び又は走り高跳び		
【D 水泳】				【D 水泳】		
ア クロール	必修		2年間でア又はイを含む②選択	ア クロール		ア～オから選択
イ 平泳ぎ				イ 平泳ぎ		
ウ 背泳ぎ				ウ 背泳ぎ		
エ バタフライ				エ バタフライ		
				オ 複数の泳法で泳ぐ又はリレー		
【E 球技】				【E 球技】		
ア ゴール型	必修		2年間でア～ウの全てを選択	ア ゴール型		ア～ウから②選択
イ ネット型				イ ネット型		
ウ ベースボール型				ウ ベースボール型	E, F, から①以上選択	
【F 武道】				【F 武道】		
ア 柔道	必修		2年間でア～ウから選択	ア 柔道		ア～ウから選択
イ 剣道				イ 剣道		
ウ 相撲				ウ 相撲		
【G ダンス】				【G ダンス】		
ア 創作ダンス	必修		2年間でア～ウから選択	ア 創作ダンス	B, C, D, G, から①以上選択	ア～ウから選択
イ フォークダンス				イ フォークダンス		
ウ 現代的なリズムのダンス				ウ 現代的なリズムのダンス		
【H 体育理論】				【H 体育理論】		
(1) 運動やスポーツの多様性	必修	必修	(1) 第1学年必修(2) 第2学年必修(各学年3単位時間以上)	(1) 文化としてのスポーツの意義	必修	(1) 第3学年必修(3単位時間以上)
(2) 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方						

2
各科目の
目標及び内容

保健分野の領域及び内容の取扱い

1年	2年	3年	内容の取扱い
(1) 健康な生活と疾病の予防 (2) 心身の機能の発達と心の健康	(1) 健康な生活と疾病の予防 (3) 傷害の予防	(1) 健康な生活と疾病の予防 (4) 健康と環境	(1) 各学年必修, (2) 第1学年, (3) 第2学年, (4) 第3学年必修(3年間で48時間程度)

体育科・保健体育科の領域及び内容の取扱い等

学校 種別	小学校				中学校			高等学校		
教科名	体 育				保健体育			保健体育		
学年	1・2	3・4	5・6		1	2	3	1※	2※	3※
領域及び内容の取扱い等	体つくり の運動遊 び	体つくり運動		A 体つくり運動	○	○	○	○	○	○
	器械・器 具を使っ ての運動 遊び	器械運動		B 器械運動 (種目選択)	○					
	走・跳の 運動遊び	走・跳の 運動	陸上運動	C 陸上競技 (種目選択)	○		BCDG から①以上 選択	BCDG から①以上 選択		
	水遊び	水泳運動		D 水泳 (種目選択)	○					
	ゲーム	ボール運動		E 球技 (型選択)	○					
				F 武道 (種目選択)	○		EF から ①以上選 択	EF から ①以上選 択		
	表現リズ ム遊び	表現運動		G ダンス (種目選択)	○		BCDG から①以上 選択	BCDG から①以上 選択		
				H 体育理論	○	○	○	○	○	○
		保 健		保 健	(1), (2)	(1), (3)	(1), (4)	(1) 現代社会と健康, (2) 安全な社会生活, (3) 生涯を通じる健康, (4) 健康を支える環境 づくり		

2
各科目の目
標及び内容

- (注) 1 小学校の各運動領域及び保健は必修。中学校、高等学校は、○印の領域等必修
2 高等学校の学年の1※、2※、3※は、それぞれ「入学年次」、「その次の年次」及び「それ以降の年次」を指す。
3 保健の中学校(1)から(4)は、「(1) 健康な生活と疾病の予防」、「(2) 心身の機能の発達と心の健康」、「(3) 傷害の防止」、「(4) 健康と環境」を指す。